

梅若研能会



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

十二月公演

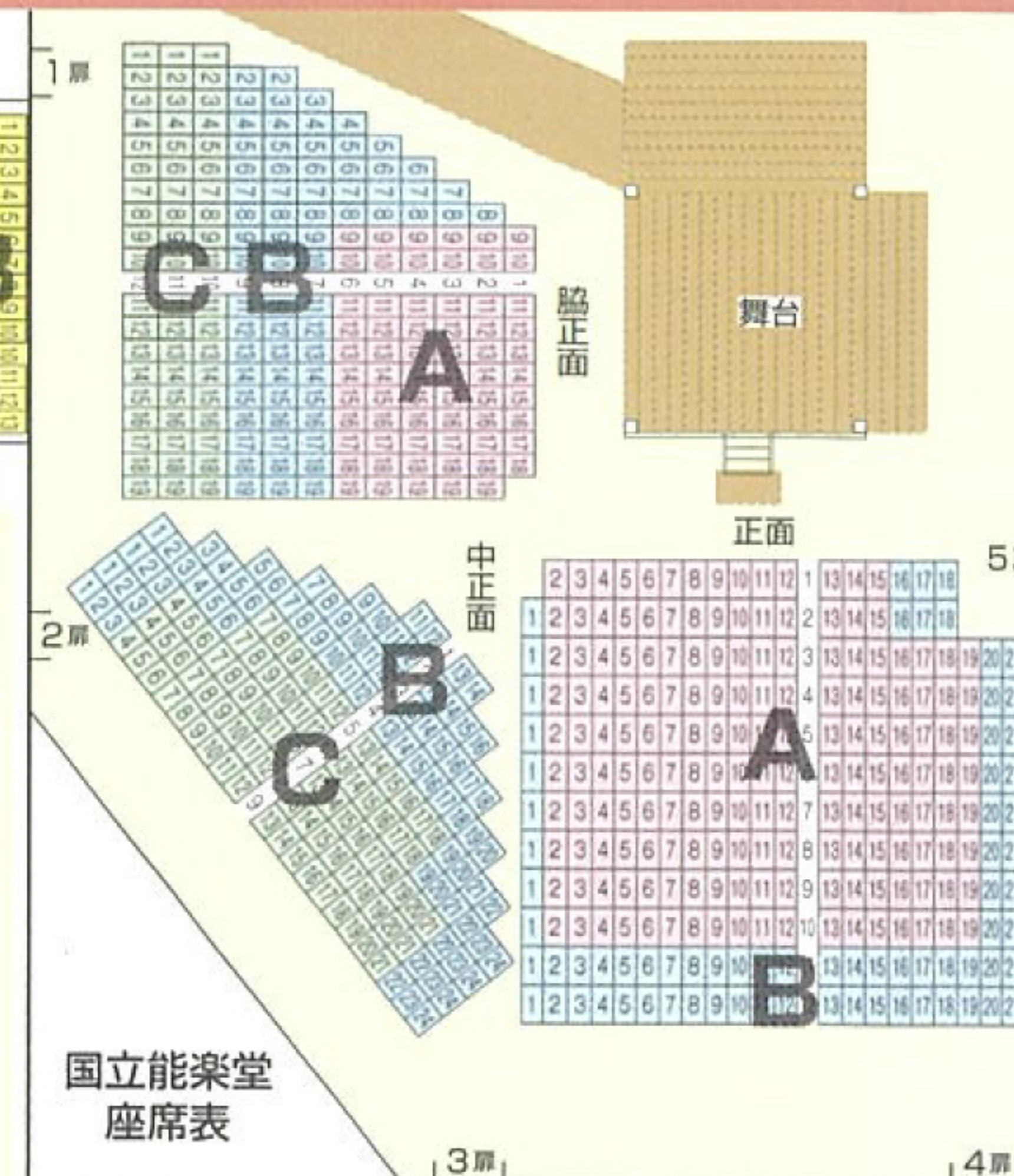
令和8年12月13日(日) 午後1時始(開場12時)
於 国立能楽堂 National Noh Theater
4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
Sunday 13 December 2026 Start 13:00 (door open 12:00)

国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



入場料 (全席指定)

指定席 A 8,000 円

指定席 B 6,000 円

指定席 C 4,000 円

指定席 GB 5,000 円

※学生席 (要学生証) 各席 3,000 円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL050-3092-0051 (平日10:00-17:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041

《メールアドレス》 staff@umewakakennohkai.com

《ホームページ》 <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

令和9年梅若研能会 公演開催日のお知らせ

一月公演 1月11日(月・祝)

国立能楽堂

【翁】 翁 梅若紀長・千歳 萩原郁也・三番 飯田 豪・面箱 石田淡朗

狂言【松樫】 シ テ 野村万作・アド 中村修一・小アド 野村裕基

能【玄象】 シテ 梅若泰志・ツレ 長谷川晴彦・前ツレ 青木健一・後ツレ 加野鉄音

仕舞【難波】 梅若志長 【吉野天人】 梅若万佐志

能「隅田川」「大瓶狸々」 みどころ講座

12月5日(土) 13:30 ~ 15:00

於・梅若万三郎家能舞台(渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000 円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 「隅田川」 八田 達弥 (はった たつや)

「大瓶狸々」 古室 知也 (こむろ ともや)

【狸々】 梅若万三郎 (前島写真店)

梅若研能会 十二月例会

令和八年十二月十三日(日)午後一時始(十二時開場) 於 国立能楽堂

仕舞 和布刈 中村 政裕

葛城 伊藤 嘉章

地謡 加野 鉄音
長谷川晴彦
中村 裕
青木 健一

(二時十分)

能 隅田川



八田 達弥

シテ(狂女) 八田 達弥
子方(梅若丸) 保立 玖海
ワキ(渡守) 安田 登
ワキツレ(旅人) 高橋 正光

笛 槻宅 聡
小鼓 幸 正昭
大鼓 安福 光雄

後見 梅若 紀長 梅若 志長

地謡 梅若千音世 遠田 修
梅若 紀佳 伊藤 嘉章
青木 健一 加藤 眞悟
梅若 雅一 長谷川晴彦



能【隅田川】 梅若万三郎 (前島写真店)

狂言 酔 薑

(二時四十分頃)

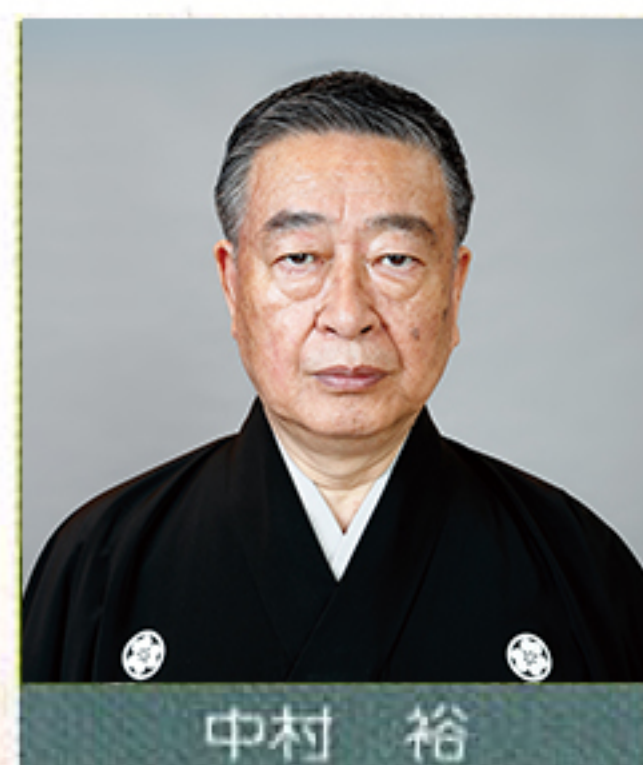
シテ(酔売り) 善竹 十郎
アド(薑売り) 野島 伸仁

後見 善竹大二郎

(三時十五分頃)

休憩 二十分

舞囃子 鶴 亀



中村 裕

シテ 中村 裕

笛 槻宅 聡
小鼓 幸 正昭
大鼓 安福 光雄
太鼓 小寺真佐人

地謡 梅若千音世 梅若 泰志
中村 政裕 梅若 紀長
伊藤 嘉章

(三時三十五分頃)

能 大瓶猩々



古室 知也

前シテ(童子) 古室 知也
後シテ(猩々) 梅若 紀佳

ツレ(猩々) 梅若 志長
ツレ(猩々) 萩原 郁也
ツレ(猩々) 加野 鉄音
ワキ(高風) 館田 善博
アイ(里人) 善竹大二郎

笛 一噌 隆之
小鼓 森 貴史
大鼓 柿原 光博
太鼓 小寺真佐人

後見 加藤 眞悟 梅若 雅一

地謡 梅若千音世 遠田 修
中村 政裕 伊藤 嘉章
青木 健一 青木 一郎
梅若 泰志 長谷川晴彦

(終演予定 四時二十五分頃)



能【猩々】 梅若志長 (前島写真店)

能 隅田川 (すみだがわ)

武蔵国隅田川の渡しに都から狂女(シテ)がやってくる。渡しの船頭(ワキ)の言葉を受け、狂女は業平がこの地で詠んだ和歌に因んだ舞を見せ乗船を乞う。船中で、対岸から聞こえてくる大念仏が行方知れずの我が子を弔うためのものと知り、嘆き悲しむ狂女。子の遺骸が埋まる塚で大念仏を行うと、人々の念仏の声の中に我が子・梅若丸の声が聞こえ、亡霊(子方)が現れる。

※狂女とは、子供や恋人など大切な人と別れるなどして心が乱れた状態の女、物狂いとも言われる。

狂言 酔 薑 (すはじかみ)

道連れとなった薑売り(ツレ)と酔売り(シテ)。薑売りは辛い「から」を用い「から松がある」、酔は酸っぱいの「す」を用い「すぎの木がある」、などと互いの品の特長を織り込んだ秀句(だじゃれ)争いとなり……。

狂言の面白さを構成する要素のひとつである言葉遊びが楽しい演目。

※ここに出てくる薑は、生姜ではなく山椒のこと。

舞囃子 鶴 亀 (つるかめ)

宮殿で行われる新年の節会。鶴と亀から千年萬年の長寿を捧げられた皇帝(シテ)が、国土の繁栄を願い舞楽を自ら舞うと、寝所の長生殿へ帰ってゆく。

※皇帝は仙術で月に行ったことがあるといふ伝説を持つ唐の玄宗皇帝。

能 大瓶猩々 (たいへいしょうじょう)

酒を商う高風と言う名の男(ワキ)のもとへ、今日も酒を求めにやって来た猩々の化身の童子(前シテ)は、高風の親孝行を讃え、泉のように酒の湧き出る壺を与えることを約束し姿を消す。やがて、仲間の猩々(ツレ)を連れた猩々(後シテ)が月と共に現れ、大瓶の酒を飲み、打ちそろって舞を舞うと、人々に長寿の酒を振るまい栄える御世を祝福する。

※ここに出てくる猩々は、酒を好み舞い戯れる、少年の姿をした中国の妖精。